グループホーム　つくし（認知症対応型共同生活介護事業所）

1. 評 価 結 果 概 要 表

作成日　20　年　6　月　27　日

［評価実施概要］

事業所番号	1870200217
法人名	特定非営利活動法人　つくし
事業所名	グループホーム　つくし
所在地	福井県敦賀市天筒町8-55 (電話)　0770-21-1331

評価機関名	社会福祉法人　福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成20年5月8日	評価確定日	平成20年6月27日

［情報提供票より］　(　20 年　4 月　30 日　事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ ○平成　16　年　7　月　1　日			
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	14　人	
職員数	13　人	常勤　8 人、　非常勤　5 人、　常勤換算　12 人		

(2)建物概要

建物構造	木造　造り
	2　階建ての　1　～　2　階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	71,000　円		その他の経費(月額)	20,000　円
敷金	有　(　円)			○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(　円) ○無		有りの場合 償却の有無	有　/　無
食材料費	朝食	150　円	昼食	500　円
	夕食	650　円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300	円

(4)利用者の概要　(　4　月　30　日　現在)

利用者数	13　名	男性	2　名	女性	11　名
要介護1	3		要介護2	4	
要介護3	3		要介護4	3	
要介護5	0		要支援2	0	
年齢	平均　83.4　歳	最低	65　歳	最高	92　歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	泉ヶ丘病院、つるが生協診療所、岸本歯科医院

［外部評価で確認されたこの事業所の特徴］

当ホームは、天筒山と敦賀港に向かう貨物専用線路に挟まれた住宅地の中に位置し、一般の民家を思わせる木造2階建ての造りとなっている。ホームの前で洗濯物が干されている風景からは、周りと調和した生活感が感じられ、日常的な声かけ等地域との関わりもできている。ホーム内は十分な採光で、ゆったりとした間取りのリビングには所々にソファーの他、畳敷きの場所も設けられており、居心地の良い癒しの空間が確保されている。また、エレベータを使って入居者が1階と2階を自由に行き来できるようになっている。居室は清潔が保たれ、入居者の馴染みの家具等が思い思いに配置されている。理事長は自宅とホームを併設させて、入居者とのまさに共同の暮らしを実現し、「潜在能力を引き出し、生活を返す」との強い思いのもと入居者にはとにかく自由に過ごしてもらうことを第一としている。管理者は認知症についての理解が深く、理事長の思いを受けとめ、職員への指導を行ないつつ、入居者に寄り添い共に過ごす実践をホーム全体で追求している。

［重点項目への取組状況］

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を検討し、改善のためのミーティングを全職員で行なっている。具体的には、理念の分かりやすい表示や記録の保管方法、栄養バランスの確保等において改善がみられた。特に栄養バランスの確保については、職員が栄養調理に関する研修に参加するなどして、さらに質を高める積極的な取り組みが確認できた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価にあたっては、管理者が各職員の意見を聞きながら作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、地元町組長、地域包括支援センター職員、理事長、管理者、職員に入居者と家族の参加を得て、2か月に1回、第3日曜日に開催されている。毎回、家族の参加も多く、意見交換も活発に行われ、議事録も適切に作成されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者家族に苦情や要望を聞く用紙を配付し、対応窓口も設けている。出された意見や要望はミーティング等で話し合うとともに、運営推進会議等でも議題に上げて改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭りや運動会、廃品回収等に参加している。ボランティアの読み聞かせや音楽療法等には地域の方たちにもホームへ来てもらい、一緒に楽しんでもらっている。老人会への加入をホーム側から要望しているが、今のところ実現していないため、認知症やグループホームへの理解を図り、継続的に働きかけていくことを期待したい。

2．評　価　結　果　（詳細）

※ ■は、重点項目。

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者に生活を返す」、「入居者の潜在能力を引き出す」、「地域の中でのケア」を理念として事業所内に分かりやすく掲示してある。地域の人たちにも理解されるように働きかけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が参加する会議や管理者からの職員への声かけを通じて理念を共有し、日々のサービス提供場面において理念に基づき入居者の支援に当たっていることがヒアリングから確認できた。		
		2　地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや運動会、廃品回収等に参加している。ボランティアの読み聞かせや音楽療法等には地域の方たちにもホームへ来てもらい、一緒に楽しんでもらっている。	○	老人会への加入をホーム側から要望しているが、今のところ実現していない。認知症やグループホームへの理解を図り、継続的に働きかけていくことを期待したい。
		3　理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で3度目の外部評価となる。毎回の外部評価の結果を全職員で共有・検討し、改善を重ねて実践につなげる努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地元町組長、地域包括支援センター職員、入居者と家族の参加により2か月に1回開催している。外部評価の結果や毎回の会議で取り上げられた検討事項についても報告や話し合いがなされている。議事録も適切に作成されている。	○	幅広い方の意見をホームの運営に反映させる意味でも、地域の民生委員や福祉協力員の参加について、今後働きかけていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からのグループホームに対する期待が大きく、市の担当者とも往き来が常にあり、いつでも指導を受けられるような関係になっている。		
		4　理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の通院には職員が付き添い、結果については電話で家族にその都度報告をしている。日々の暮らしぶり等は家族が来所された際に個別に説明をしている。金銭管理については領収書を付けて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族に苦情や要望を聞く用紙を配付し、対応窓口も設けている。出された意見や要望はミーティング等で話し合うとともに、運営推進会議等でも議題に上げて改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。また、ミーティングで各ユニットの入居者の情報交換を行い、職員全体で全入居者の情報把握に努めている。さらに、新人職員は入居者との関係づくりをした上で、身体に触れるケアを行なうなど配慮がなされている。以前は離職者が多く家族からの苦情もあったが、現在は改善されている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5　人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資質の向上のため、職員には多くの研修に積極的に参加させている。内部での勉強会も月1回行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャーの集まりに参加して情報交換を行っている。また、ホームの行事に他のグループホームの入居者を招待し、一緒にそば打ち等の交流を行っている。		
		Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得して利用できるように、相談から利用に至るまで職員が自宅へたびたび訪問し、なじみの関係を築いている。また、家族によるホームの見学の受け入れも行っている。		
		2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はゆっくり話を聞く姿勢や入居者のペースに合わせて共に学び支えあうよう努めている。具体的には、入居者から料理の盛り付けを教わったり、医師や教師であった入居者に対しては看護師になったり生徒になったりしながら関わりを深めている。		
		Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を採用して、入居者の経験や性格からできること・できないこと、好きなこと・嫌いなこと等を把握し、また、家族からの情報収集にも努めている。		
		2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でケアプランの評価、見直しを行い、本人や家族の思いを反映するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月に1度、また、状況により随時見直しを行っている。本人や家族の要望を取り入れながら見直しを行っている。		
		3　多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊にも柔軟に対応している。また、空き部屋を利用してのショートステイも受け入れる準備はできているが今のところニーズがない。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ本人や家族が希望する医師をかかりつけ医としている。定期受診や緊急受診は職員が付き添い、結果をその都度家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化や終末期の対応について、ホームとしてできることできないことを早い段階から説明し、入居者・家族全員の意向を確認している。		
		Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に排泄時については、他人に気付かれないようにさりげなくサポートしている。認知症への対応、プライバシーの保護等については、職員の入社時に内部研修で徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は基本的に決まっているが、強制はしていない。その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援をしている。		
		(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは入居者と相談しながら決めるようにしている。また、調理や盛り付け、片付け等も入居者と共に行い、職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるように雰囲気づくりを大切にしている。食材の買い物には入居者も一緒に出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日の午後と基本的な時間は決めているが、本人の希望・状態に応じて対応している。		
		(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるように、調理の好きな方、洗濯の好きな方には協力を求めるなど、役割に喜びを感じながら過ごしてもらえるように配慮している。	○	運営推進会議では「家庭菜園の確保ができないか」という意見も出ており、ホームの近くには畑に使える場所もあるため、現在入居者で野菜作りの経験のある方はいないとのことだが、今後、草木の栽培や土いじり等の自然にふれることで入居者の意欲を高める取り組みも期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや近くにある気比神宮等へ散歩に出かけている。入居者が「花見に行きたい、カツ丼を食べたい」と言えば、「今から出かけようか」というように本人の希望に添えるよう支援をしている。		
		(4) 安心と安全を支える支援			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、職員の気配りや見守りにより対応している。徘徊のある人にも行動を制限せず職員が付き添うようにしている。		

外部評価№	自己評価№	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防訓練が年2回行われている。夜間を想定し、職員体制が少ない設定による訓練も行っている。地元町組長の協力を得て町内の方にも参加を呼びかけているが、日中は留守宅が多く、参加してもらえない状況である。	○	今後、日程調整をして地域の方が多く参加してもらえる訓練の実施も期待したい。また、一時の寒さをしのげるような備えも期待したい。
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた食事、水分等の摂取状況を毎日チェック表に記録している。また、職員が栄養調理に関する研修に参加するなどして、栄養バランスの確保に努めている。		
		2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の音や明るさは適切である。リビングには畳の部分もあり、ソファや長椅子も所々に設置されている。また、地域の方から提供された季節の花が飾られているなど、癒しの空間が確保され、入居者が心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物や家具が持ち込まれている。家族の写真や小物等もあり、入居者の思い思いの空間となっている。		

グループホーム　つくし（1階）

自　己　評　価　票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と潜在能力を引き出し活用が出来る環境、地域との繋がりがある環境作りを理念に置いている。	○	安全に安心して暮らしていける具体的なイメージの理念をつくりあげたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議等で入居者個々の生活のあり方、介護方針等を検討する機会を設けている。	○	職員の意識を高める。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議・家族会・ホーム便り等で伝えている。		運営推進会議・家族会への参加者が増えているのでその都度伝えていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物に出かけ顔馴染の方も徐々に増えてきている。	○	ボランティアで来て頂いている「読み聞かせ」の時に近隣の方へも声かけをし来て頂くようにする。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事に高校生や看護学生がボランティアとして活動しに来てくれる。地域の行事・廃品回収等に参加している。	○	老人会の入会が出来ていないので働きかけを続けていく。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の会合で認知症理解の講演を行っている。介護の勉強をしている高校生の実習を受け入れている。		空室（入院等による）が出来たときのショートスティの受け入れを検討している。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のためのミーティングを全職員で行っている。	○	外部評価の結果を全職員で検討し、サービス向上に努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告をし、参加メンバーが自由に発言できる機会を設け意見をもらっている。	○	近隣の方の発言（意見・要望）を大切にし、全職員に伝えている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者からの指導がいつでも受けられる体制にある。	○	市担当者に何でも話せる関係作りを行っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用中の入居者がいるため、職員への説明を行った。		職員がどこまで理解できているかわからない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加した。	○	職員の意識向上と理解を深める。
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項は説明書で説明をしている。入院などがあるときは家族と今後のあり方を話し合っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市からの介護相談員を月1回派遣してもらっている。		相談員からの意見をいただきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通院介助を行っているため体調の変化については随時報告している。金銭管理については領収書を明示し、報告している。	○	一方的な報告にならないようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口を文書で配布している。	○	意見や要望等をミーティングで検討している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で自由に発言が出来る体制をとっている。		職員の意見や要望は言いにくい事もあるので把握しきれているとは言えない。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営者を通常のシフトに入れず状況に応じ対応ができるようにしている。		介護度の重度化により、職員の員数を増やした。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定している。離職が減った。	○	ミーティングで他ユニットの入居者の情報交換を行い、全職員が全入居者の把握に努めている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、事業所内での勉強会を行っている。	○	質の向上のための研修会への参加を多くしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーのサークルへの参加、他のグループホームの方の行事への参加の招待をし、参加して頂いている。	○	交流の機会を増やす。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	それぞれが相談できる役職構成を行っている。 スタッフーサブリーダーーリーダーー主任ー管理者ー理事長		他事業所との親睦会を行っている。ストレスや悩みを把握するように努めているが十分に把握しているとはいえない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が責任ある役割分担をもっている。		資格習得のための勤務割を優先している。
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望には事前の面談と心身の状態、意向について理解するように努めている。		ケアマネジャー・医療関係者からも情報をいただいている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望と事業所の出来ること、出来ないことの話し合いをしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決め対応している。		職員間の申し送りを蜜にして状態の把握をしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の機会は設けていない。	○	事前面談を出来るだけ多く持つようにしたい。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	関わりの中で季節行事や食事内容を入居者と相談している。	○	入居者の高齢化により対応を考えていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を家族に伝え、不穏時などにおける関わりを家族の訪問で対応している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊の制限はなく，家族の宿泊も出来るようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行ったり、昔馴染みの友人や知人の訪問がある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい方と食事のテーブル席を並べたり、趣味の合う方と余暇を過ごせるように場面作りをしているが認知症の進行に伴い関わりが減ってきている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方の入院先へ入居者と一緒に見舞いに行ったりしている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究センター方式を取り入れている。把握困難な入居者については発する言葉や表情から汲み取るように努力している。	○	サービスの実施の徹底。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートの書き込みを家族にもしていただき把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の過ごし方を強制、統一をしていない。起床・就寝・入浴は個々に違う。	○	職員の都合で一日の流れを強制しないように徹底している。
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でケアプランの評価・見直しを行い、本人、家族の思いを反映させていけるようにしている。	○	定期的に（3ヶ月毎）担当者会議を行い見直しをしている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っている。	○	状況により，随時、計画の見直しができる体制にある。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄状況を記録している。生活記録には、本人の発する言葉をそのまま記録し、職員勤務交替時に申し送りを行っている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期の受診、緊急時の受診は職員が対応している。入院の時は早期に退院が出来るように病院と蜜に話し合っている。	○	入院中の方に病院に任せきりではなく、見舞いや洗濯等、柔軟な対応ができている。
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れを行っている。消防訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	制限はしていないが現在は他のサービスは受けていない。保険外でのベッドのリースはある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営会議に参加していただき助言を受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診介助を職員が行っている。予防接種は訪問してもらっている。	○	複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師との相談が密にできる状況にある。日頃の状況等も細かに報告している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員と24時間連絡がとれる体制にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には毎日、職員が面会に生き、状態の把握をしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としてどこまでの重度化に対しての対応ができるか説明している。	○	延命、ターミナルについて全員の意向は聞いているが、意思確認書として文章を作成したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期の対応が設備の面で困難な状況にあるため改善の必要がある。	○	職員の介護技術の向上のための勉強会を行っているが、実践につながるようにする。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時や他の事業所に移られたときはケアプランやこれまでの支援の状況の情報を提供している。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・入浴時等の配慮、特にトイレへの声かけは他の人に気づかれないように配慮している。	○	プライバシーの保護に努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	いくつかの選択肢を提案して選んでもらっている。(おやつや飲み物等)		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の過ごし方は決まっているが強制はしていない。	○	せかしたり、行動の否定をしないように努めている。
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自由な服装である。美容院は特に希望がないので美容師に訪問してもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の時に好きなものを買ったり、食事の準備、片付けは職員と一緒にしている。	○	好きなものばかりではなく栄養面も留意する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を知り、おやつや食事に取り入れている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用し、トイレへの声かけを行っている。		排泄パターンを知り、おむつを外せている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な時間は定めているが、本人の希望・汚染に応じて対応している。	○	認知症の進行、病状の悪化により介護力が増し、入浴時間をある程度決めて職員の配置をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝等は自由にされているが長くなりＡＤＬの低下の状態にならないように起きて頂く時もある。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理が好きな方、洗濯が好きな方とそれぞれのできる仕事をしていただいている。外食、屋外活動を楽しみにされている。	○	施設外での行事を増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる人は持っている。また出来ない人は職員が管理し、買い物は自由に出来る。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「家に帰る」「用事で出かける」と言われた時は一緒に外へ出て散歩や買物に行っている。	○	希望が把握でき、対応ができるようになる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近隣での季節の行事（お花見・夏祭り）に参加し、月に1回は外食に出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規制はしていない。電話の子機を使用し、居室でかけられるようにしている。年賀状等は宛名書きの代筆をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等の規制はしていない。訪問者の認知が出来ない方には家族へ確認する時もある。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、ミーティングで話し合い、拘束しない介護を徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の鍵は保安上の理由で施錠しているが、昼間は開錠している。外に出る方には職員の仕事分担において見守りを行っている。	○	現状の維持に努力する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	動きの状況が把握できるように職員の居場所の工夫をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲すると生命に関わるものについては手の届かない場所に保管し、薬品はスタッフルームに保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険をケアプランに反映している。ヒヤリハットの報告、記録を基に予防対策を検討している。	○	ＡＤＬの低下のためのリスクを事前に把握し、早期の対応が出来るようにする。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当ての研修に参加したり、消防署の協力で救急手当てや蘇生術の研修を全職員が受講している。		実践としての事例がないので職員個々の実力が把握できていない。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練・消火訓練を行っている。	○	訓練に近隣の参加を呼びかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプラン見直し時に起こり得るリスク・拘束しない介護のリスクを説明し、理解を得られるようにしている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、異常があれば管理者に報告し、必要な時は病院へ受診している。	○	異常とわかる職員の教育が必要である。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに処方箋を保管し、職員が内容の把握が出来るようにしている。薬の変更があった時は申し送り時に伝えている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を活用し、医師の指示で緩下剤のコントロールをしている。乳製品・植物繊維食品を摂るように心がけ、自然排便できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日の義歯の消毒，洗浄は職員が管理している。うがいの出来ない方にはガーゼで口腔清拭を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を活用し個々の摂取量がわかるようにしている。水分が摂りにくい人には増粘剤を使用している。食事の献立を記録し栄養がかたよらないように配慮している。	○	栄養についての研修会に参加している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成し、対応している。早期発見、早期対応が出来るように全職員が研修会に参加している。		全職員、全入居者のインフルエンザ予防接種を受けている．ペーパータオルの使用、掃除（特にトイレ）を徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が冷蔵庫のチェック、調理用具の消毒を行っている。食中毒予防の研修に参加している。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇を作り、季節の花々を植えている。建物は近隣との調和がとれている。	○	調和がとれていることで入りずらいのではないか、。表札の工夫をしてはどうか検討していきたい。
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すための飾り付けを入居者と共に行っている（雛人形・生け花・ささ飾り・クリスマスツリー等）	○	テレビの音量で不快感を訴える方もいるので配慮していきたい。
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや長いすを設置し、好みの場所で過ごせるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品は入居者が持ち込んでいる。	○	掃除を本人任せではなく、配慮しながら職員も一緒にする。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン・空気清浄機・除湿機を設置し、定期的に掃除をしている。トイレは換気扇と消臭剤を使用し、悪臭が出ないようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置をしたり、ADLに応じた居室の工夫（ベッドの使用）をし自立した生活が過ごせるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・風呂場・居室の入り口に写真を置いたりしての場所の確認ができるように工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	生活観が分かるように洗濯干し場が見える位置にある。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

職員の質の向上のために、研修、勉強会、ミーティングを重ね、管理者との連絡を密にしている。よりよい介護を目指し職員が同じ方向に向いていくように努めている。

グループホーム　つくし（2階）

自　己　評　価　票

■は、外部評価との共通項目。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営　　**1　理念の共有**			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と潜在能力を引き出し活用が出来る環境、地域との繋がりがある環境作りを理念に置いている。	○	安全に安心して暮らしていける具体的なイメージの理念をつくりあげたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議等で入居者個々の生活のあり方、介護方針等を検討する機会を設けている。	○	職員の意識を高める。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議・家族会・ホーム便り等で伝えている。		運営推進会議・家族会への参加者が増えているのでその都度伝えていきたい。
	2　地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物に出かけ顔馴染の方も徐々に増えてきている。	○	ボランティアで来て頂いている「読み聞かせ」の時に近隣の方へも声かけをし来て頂くようにする.
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事に高校生や看護学生がボランティアとして活動しに来てくれる。地域の行事・廃品回収等に参加している。	○	老人会の入会が出来ていないので働きかけを続けていく。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の会合で認知症理解の講演を行っている。介護の勉強をしている高校生の実習を受け入れている。		空室（入院等による）が出来たときのショートスティの受け入れを検討している。
	3　理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のためのミーティングを全職員で行っている。	○	外部評価の結果を全職員で検討し、サービス向上に努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告をし、参加メンバーが自由に発言できる機会を設け意見をもらっている。	○	近隣の方の発言（意見・要望）を大切にし、全職員に伝えている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者からの指導がいつでも受けられる体制にある。	○	市担当者に何でも話せる関係作りを行っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用中の入居者がいるため、職員への説明を行った。		職員がどこまで理解できているかわからない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加した。	○	職員の意識向上と理解を深める。
	4　理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項は説明書で説明をしている。入院などがあるときは家族と今後のあり方を話し合っている。		状態の変化（胃ろう）により契約解除に至った入居者の次の施設を紹介し、入所することができた。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市からの介護相談員を月1回派遣してもらっている。		相談員からの意見をいただきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通院介助を行っているため体調の変化については随時報告している。金銭管理については領収書を明示し、報告している。	○	一方的な報告にならないようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口を文書で配布している。	○	意見や要望等をミーティングで検討している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で自由に発言が出来る体制をとっている。		職員の意見や要望は言いにくい事もあるので把握しきれているとは言えない。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営者を通常のシフトに入れず状況に応じ対応ができるようにしている。		急な受診時には職員を確保できる体制をとっている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定している。離職が減った。	○	ミーティングで他ユニットの入居者の情報交換を行い、全職員が全入居者の把握に努めている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5　人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、事業所内での勉強会を行っている。	○	質の向上のための研修会への参加を多くしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーのサークルへの参加、他のグループホームの方の行事への参加の招待をし、参加して頂いている。	○	交流の機会を増やす。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	それぞれが相談できる役職構成を行っている。 スタッフーサブリーダーーリーダーー主任ー管理者ー理事長		他事業所との親睦会を行っている。ストレスや悩みを把握するように努めているが十分に把握しているとはいえない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が責任ある役割分担をもっている。		資格習得のための勤務割を優先している。
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援　　**1　相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望には事前の面談と心身の状態、意向について理解するように努めている。		ケアマネジャー・医療関係者からも情報をいただいている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望と事業所の出来ること、出来ないことの話し合いをしている。		家族は入居を望む為に言いにくい事もあるのではないかと言うことを考える。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決め対応している。		職員間の申し送りを蜜にして状態の把握をしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の体制はとっていないが家族には見学に来てもらうようにしている。	○	事前面談を出来るだけ多く持つようにしたい。
	2　新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	関わりの中で季節行事や食事内容を入居者と相談している。	○	入居者の高齢化により対応を考えていきたい。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を家族に伝え、不穏時などにおける関わりを家族の訪問で対応している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊の制限はなく，家族の宿泊も出来るようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行ったり、昔馴染みの友人や知人の訪問がある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい方と食事のテーブル席を並べたり、趣味の合う方と余暇を過ごせるように場面作りをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方の入院先へ入居者と一緒に見舞いに行ったりしている。		
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント　　**1　一人ひとりの把握**			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究センター方式を取り入れている。把握困難な入居者については発する言葉や表情から汲み取るように努力している。	○	サービスの実施の徹底。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートの書き込みを家族にもしていただき把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の過ごし方を強制、統一をしていない。起床・就寝・入浴は個々に違う。	○	職員の都合で一日の流れを強制しないように徹底している。
	2　本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でケアプランの評価・見直しを行い、本人、家族の思いを反映させていけるようにしている。	○	定期的に（3ヶ月毎）担当者会議を行い見直しをしている。

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っている。	○	状況により，随時、計画の見直しができる体制にある。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄状況を記録している。生活記録には、本人の発する言葉をそのまま記録し、職員勤務交替時に申し送りを行っている。		
	3　多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期の受診、緊急時の受診は職員が対応している。入院の時は早期に退院が出来るように病院と蜜に話し合っている。	○	入院中の方に病院に任せきりではなく、見舞いや洗濯等、柔軟な対応ができている。
	4　本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れを行っている。消防訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	制限はしていないが現在は他のサービスは受けていない。保険外でのベッドのリースはある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営会議に参加していただき助言を受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診介助を職員が行っている。予防接種は訪問してもらっている。	○	複数の医療機関と関係を蜜に結んでいる。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師との相談が密にできる状況にある。日頃の状況等も細かに報告している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員と24時間連絡がとれる体制にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には毎日、職員が面会に生き、状態の把握をしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としてどこまでの重度化に対しての対応ができるか説明している。	○	延命、ターミナルについて全員の意向は聞いているが、意思確認書として文章を作成したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期の対応が設備の面で困難な状況にあるため改善の必要がある。	○	職員の介護技術の向上のための勉強会を行っているが、実践につながるようにする。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時や他の事業所に移られたときはケアプランやこれまでの支援の状況の情報を提供している。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援　　**1　その人らしい暮らしの支援　(1) 一人ひとりの尊重**			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄・入浴時等の配慮、特にトイレへの声かけは他の人に気づかれないように配慮している。	○	プライバシーの保護に努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	いくつかの選択肢を提案して選んでもらっている。(おやつや飲み物等)		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の過ごし方は決まっているが強制はしていない。	○	せかしたり、行動の否定をしないように努めている。
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自由な服装である。理・美容は利用時に同行している。		行けない方のために訪問理・美容を行うようになってから「ついでに私もしてもらう」が多くなってきたので今後の課題である。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の時に好きなものを買ったり、食事の準備、片付けは職員と一緒にしている。	○	好きなものばかりではなく栄養面も留意する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を知り、おやつや食事に取り入れている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用し、トイレへの声かけを行っている。		排泄パターンを知り、おむつを外せている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な時間は定めているが、本人の希望・汚染に応じて対応している。	○	認知症の進行、病状の悪化により介護力が増し、入浴時間をある程度決めて職員の配置をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝等は自由にされているが長くなりＡＤＬの低下の状態にならないように起きて頂く時もある。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理が好きな方、洗濯が好きな方とそれぞれのできる仕事をしていただいている。外食、屋外活動を楽しみにされている。	○	施設外での行事を増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる人は持っている。また出来ない人は職員が管理し、買い物は自由に出来る。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「家に帰る」「用事で出かける」と言われた時は一緒に外へ出て散歩や買物に行っている。	○	希望が把握でき、対応ができるようになる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近隣での季節の行事（お花見・夏祭り）に参加し、月に1回は外食に出かけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規制はしていない。電話の子機を使用し、居室でかけられるようにしている。年賀状等は宛名書きの代筆をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等の規制はしていない。訪問者の認知が出来ない方には家族へ確認する時もある。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、ミーティングで話し合い、拘束しない介護を徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の鍵は保安上の理由で施錠しているが、昼間は開錠している。外に出る方には職員の仕事分担において見守りを行っている。	○	現状の維持に努力する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	動きの状況が把握できるように職員の居場所の工夫をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲すると生命に関わるものについては手の届かない場所に保管し、薬品はスタッフルームに保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険をケアプランに反映している。ヒヤリハットの報告、記録を基に予防対策を検討している。	○	ＡＤＬの低下のためのリスクを事前に把握し、早期の対応が出来るようにする。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当ての研修に参加したり、消防署の協力で救急手当てや蘇生術の研修を全職員が受講している。		実践としての事例がないので職員個々の実力が把握できていない。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練・消火訓練を行っている。	○	訓練に近隣の参加を呼びかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプラン見直し時に起こり得るリスク・拘束しない介護のリスクを説明し、理解を得られるようにしている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、異常があれば管理者に報告し、必要な時は病院へ受診している。	○	異常とわかる職員の教育が必要である。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに処方箋を保管し、職員が内容の把握が出来るようにしている。薬の変更があった時は申し送り時に伝えている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を活用し、医師の指示で緩下剤のコントロールをしている。乳製品・植物繊維食品を摂るように心がけ、自然排便できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日の義歯の消毒，洗浄は職員が管理している。うがいの出来ない方にはガーゼで口腔清拭を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を活用し個々の摂取量がわかるようにしている。水分が摂りにくい人には増粘剤を使用している。食事の献立を記録し栄養がかたよらないように配慮している。	○	栄養についての研修会に参加している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルを作成し、対応している。早期発見、早期対応が出来るように全職員が研修会に参加している。		全職員、全入居者のインフルエンザ予防接種を受けている．ペーパータオルの使用、掃除（特にトイレ）を徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が冷蔵庫のチェック、調理用具の消毒を行っている。食中毒予防の研修に参加している。		
	2　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり　(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇を作り、季節の花々を植えている。建物は近隣との調和がとれている。	○	調和がとれていることで入りずらいのではないか、。表札の工夫をしてはどうか検討していきたい。
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すための飾り付けを入居者と共に行っている（雛人形・生け花・ささ飾り・クリスマスツリー等）	○	テレビの音量で不快感を訴える方もいるので配慮していきたい。
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや長いすを設置し、好みの場所で過ごせるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品は入居者が持ち込んでいる。	○	掃除を本人任せではなく、配慮しながら職員も一緒にする。
84	○換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン・空気清浄機・除湿機を設置し、定期的に掃除をしている。トイレは換気扇と消臭剤を使用し、悪臭が出ないようにしている。		

項目番号	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置をしたり、ADLに応じた居室の工夫（ベッドの使用）をし自立した生活が過ごせるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・風呂場・居室の入り口に写真を置いたりしての場所の確認ができるように工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	生活観が分かるように洗濯干し場が見える位置にある。		

項目番号	項　　目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
	V　サービスの成果に関する項目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○　①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○　①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

職員の質の向上のために、研修、勉強会、ミーティングを重ね、管理者との連絡を密にしている。よりよい介護を目指し職員が同じ方向に向いていくように努めている。